

「カンボジア・リハビリセンター9ヶ所と障害児支援施設に対する
障害児用中古車椅子供与計画」事業完了報告(写真)

2013年9月26日プノンペン市のカンボジア福祉省講堂で福祉省副大臣他幹部、日本大使館、JICAをはじめ全国のリハビリセンターと養護施設などから約120名が参加され当会からリハビリセンターと養護施設に障害児用車椅子160台の引き渡し式を行った。



福祉大臣からは9月24日に発足した新内閣は、福祉政策に重点を置くことを強調され、当NGOの人道支援に感謝し、ニーズの高いプロジェクトとして継続することを強く要望された。今回は2010年以来3回目で累計320台になる。



式のあと福祉省玄関ホールで障害児の保護者と子ども10組が参加されて関係者と記念撮影。当日の様子は新聞5紙と2つのテレビ局から大きく報道され反響を生んだ。



会場で車椅子の乗った子どもに声を掛ける福祉省幹部と喜ぶ母親達

子ども用車椅子の保全と修理のためのワークショップ



引き渡し式のあとリハビリセンターや養護施設の責任者や車椅子管理担当者 60 名を対象に
当会理事と整備担当の会員が当会の目的と使命さらに保守と修理のワークショップを開いた。
補修と修理の手引(17 ページの冊子)を写真入りクメール語で作成配布。



さらに 5 カ所の養護施設を訪問して P T (物理療法士) に、車椅子の使用方法も説明して、
大切に使用し次の子どもに繋げることを確認した。

カンポンチャム州での引き渡し式



プノンペンから車で3時間のカンポンチャム州のリハビリセンターで9月30日38台の引き渡し式を地方の福祉省幹部、センター全職員が参加して行った。参加した母親と1人ずつ声を交わし、励ました。関係者は他の外国のNGOと異なり、管理、修理まで徹底し、心の籠ったプロジェクトと高い評価を受けた。



現地の子ども達が描いた絵をお礼に日本の子ども達にといただいた。カンボジアと

日本の子どもや保護者との橋渡しが出来た。日本の車椅子の提供者に届ける予定。

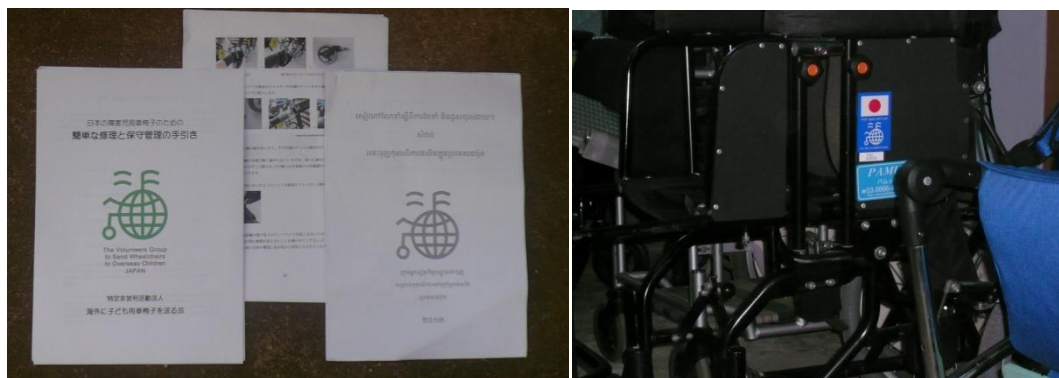


引き渡しの終了時に参加全員がカンボジア式に手を合わせお礼を言ってくれた。



田舎の障害児の家庭を訪問し、生活の環境や過去に届けた車椅子の活用状況等について検証した。車椅子によって子どもの背筋が伸びたことや家族の負担が軽減されたこと、地域の人達が手を差し伸べてくれていることを話してくれた。

このようにして、裨益者は増えていく。 2014年3月モニタリングと評価を実施予定



保守と修理マニュアル(日本語・クメール版) すべての車椅子に当会ロゴと日ノ丸のステッカー貼付

以上